

令和 6 年度

横浜市大気測定結果報告書

横浜市みどり環境局

は じ め に

この報告書は、令和6年度に行った大気汚染物質等の常時監視測定、ダイオキシン類やベンゼンなど有害大気汚染物質測定及び空間放射線量測定の調査結果をとりまとめたものです。

令和7年3月現在、常時監視測定局の測定は、一般環境19局、自動車排出ガス8局、空間放射線1局で行っています。

定点での定期測定は、有害大気汚染物質3地点で年12回（毎月）、ダイオキシン類6地点で年2回（夏季・冬季）行っています。

この報告書を、大気汚染対策をはじめ広い分野で御活用いただければ幸いです。

目次

第1章 常時監視測定局における測定概要.....	1
1 監視測定体制.....	1
2 常時監視測定値の取扱い及び評価方法	5
3 常時監視項目の測定方法	5
第2章 令和6年度大気汚染の状況	6
1 大気環境の概要.....	6
2 常時監視測定結果.....	7
(1) 二酸化硫黄 (SO ₂)	7
(2) 一酸化炭素 (CO)	10
(3) 浮遊粒子状物質 (SPM)	12
(4) 二酸化窒素 (NO ₂)	15
(5) 光化学オキシダント (O ₃)	18
(6) 微小粒子状物質 (PM _{2.5})	21
(7) 非メタン炭化水素	23
第3章 有害大気汚染物質及びダイオキシン類の測定結果.....	25
第4章 空間放射線測定結果	27
第5章 大気汚染に関する環境基準	28

第1章 常時監視測定局における測定概要

1 監視測定体制

本市の大気に係る測定体制は、自動測定機による常時監視システムとして、工場や自動車等の発生源からの影響を直接受けない一般環境大気中の汚染物質等を測定する一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）19局、自動車から排出される汚染物質の測定を目的として主要幹線道路沿道に設置している自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）8局となっています。これらの測定局の名称は、令和6年9月30日に町名を基にしたものに変更しました。その後、令和7年2月に株式会社デスポとネーミングライツ契約を締結したため、4月から測定局の名称を愛称に変更しました。

また、大規模な工場・事業場からの大気汚染物質排出量等を監視する大気発生源測定局は、測定対象事業所を見直し、27事業所から16事業所となりました。

測定局で測定されたデータは、テレメータシステムによりネットワーク回線を介してみどり環境局の監視センターに送信され、市内の汚染状況や発生源からの汚染物質排出量等を把握・監視しています。

光化学スモッグ等の注意報発令時には、大気発生源測定局が設置されている大規模な工場・事業場に対して、神奈川県大気汚染緊急時措置要綱で取り決めた燃料使用量等の削減措置の実施状況を監視しています。

表 1-1 大気汚染常時監視測定局の名称変更

令和 7 年 4 月に下表のとおり測定局の名称が変更されました。

種別	地点番号	新測定局名 (愛称)	旧測定局名	所在地等※ ¹
一般環境大気測定局（一般局）	1	デスポ鶴見区本町通	鶴見区潮田交流プラザ	鶴見区本町通 4-171-23 鶴見区潮田交流プラザ 4 階/13F
	2	デスポ神奈川区広台太田町	神奈川区総合庁舎	神奈川区広台太田町 3-8 神奈川区総合庁舎 7 階/7F
	3	デスポ港北区大豆戸町	港北区総合庁舎	港北区大豆戸町 26-1 港北区総合庁舎 4 階屋上/4F
	4	デスポ磯子区磯子	磯子区総合庁舎	磯子区磯子 3-5-1 磯子区総合庁舎 3 階
	5	デスポ保土ヶ谷区桜ヶ丘	保土ヶ谷区桜ヶ丘高校	保土ヶ谷区桜ヶ丘 2-15-1 市立桜ヶ丘高校校庭内地上
	6	デスポ西区平沼	西区平沼小学校	西区平沼 2-11-36 市立平沼小学校校庭内地上
	7	デスポ金沢区富岡東	金沢区長浜	金沢区富岡東 6-16-1 県立呼吸器循環器病センター敷地内地上
	8	デスポ鶴見区生麦	鶴見区生麦小学校	鶴見区生麦 4-15-1 市立生麦小学校校庭内地上
	9	デスポ中区本牧大里町	中区本牧	中区本牧大里町 34 本牧臨海公園内地上
	10	デスポ戸塚区汲沢	戸塚区汲沢小学校	戸塚区汲沢 3-6-1 市立汲沢小学校校庭内地上
	11	デスポ港南区野庭町	港南区野庭中央公園	港南区野庭町 613 野庭中央公園内地上
	12	デスポ旭区鶴ヶ峰	旭区鶴ヶ峰小学校	旭区鶴ヶ峰 1-42 市立鶴ヶ峰小学校校庭内地上
	13	デスポ瀬谷区南瀬谷	瀬谷区南瀬谷小学校	瀬谷区南瀬谷 1-1-1 市立南瀬谷小学校校庭内地上
	14	デスポ南区南太田	南区横浜商業高校	南区南太田町 2-30-1 市立横浜商業高校校庭内地上
	15	デスポ栄区犬山町	栄区上郷小学校	栄区犬山町 6-1 市立上郷小学校校庭内地上
	16	デスポ緑区三保町	緑区三保小学校	緑区三保町 1867 市立三保小学校校庭内地上
	17	デスポ青葉区市ケ尾町	青葉区総合庁舎	青葉区市ケ尾町 31-4 青葉区総合庁舎 4 階屋上/4F
	18	デスポ都筑区茅ヶ崎中央	都筑区総合庁舎	都筑区茅ヶ崎中央 32-1 都筑区総合庁舎 3 階/5F
	19	デスポ泉区和泉中央北	泉区総合庁舎	泉区和泉中央北 5-1-1 泉区総合庁舎 4 階/4F
自動車排出ガス測定局（自排局）	20	デスポ鶴見区下末吉	鶴見区下末吉小学校	鶴見区下末吉 2-25-6 市立下末吉小学校校庭内地上
	21	デスポ西区浅間町	西区浅間下交差点	西区浅間町 1-16 浅間下公園内地上
	22	デスポ港南区港南中央通	港南中学校	港南区港南中央通 6-1 市立港南中学校校庭内地上
	23	デスポ戸塚区戸塚町	戸塚区矢沢交差点	戸塚区戸塚町 4272 戸塚変電所前地上
	24	デスポ旭区都岡町	旭区都岡小学校	旭区都岡町 4-8 市立都岡小学校校庭内地上
	25	デスポ青葉区しらとり台	青葉台	青葉区しらとり台 5 しらとり台第一公園内地上
	26	デスポ都筑区平台	資源循環都筑工場前	都筑区平台 27-1 資源循環局都筑工場敷地内地上
	27	デスポ磯子区滝頭	磯子区滝頭	磯子区滝頭 3-1-68 たきがしら会館敷地内地上

※ 所在地等の記載うち「○階/●F」という記載は、●階建ての建物の○階に設置されているという意味です。

表 1-2 大気汚染常時監視測定局及び測定項目

(令和 6 年度)

種別	測定局	二酸化硫黄	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	一酸化窒素	二酸化窒素	光化学オキシダント	非メタン炭化水素	メタン	一酸化炭素	風向	風速	温度	湿度	全天日射量	放射収支量
一般局	デスポ鶴見区本町通	S41	S46	H23	S52	S52	S52	S57	S57		S44	S44				
	デスポ神奈川区広台太田	S40	S46	H25	S50	S50	S50				S44	S44				
	デスポ港北区大豆戸町	S40	S46	H25	S52	S52	S52				S44	S44				
	デスポ磯子区磯子	S42	S46	H24	S50	S50	S50				S44	S44				
	デスポ保土ヶ谷区桜ヶ丘	S44	S46	H25	S50	S50	S50				S44	S44				
	デスポ西区平沼	S46	S46	H26	S52	S52	S52				S46	S46				
	デスポ金沢区富岡東	S46	S46	H25	S50	S50	S50	S57	S57		S46	S46	S51	S51		S60
	デスポ鶴見区生麦		S48		S48	S48	S48	S56	S56		S48	S48				
	デスポ中区本牧大里町	S48	S48	H25	S48	S48	S48	S51	S51		S53	S53			S53	
	デスポ戸塚区汲沢	S59	S59		S59	S59	S59				S59	S59				
	デスポ港南区野庭町	S55	S55	H25	S55	S55	S55				S55	S55				
	デスポ旭区鶴ヶ峰	S55	S55	H25	S55	S55	S55	S56	S56		S55	S55				
	デスポ瀬谷区南瀬谷	S56	S56	H25	S56	S56	S56				S56	S56				
	デスポ南区南太田	S57	S57	H25	S57	S57	S57				S57	S57				
	デスポ栄区犬山町	H4	H4	H25	H4	H4	H4				H4	H4				
	デスポ緑区三保町	H7	H7	H25	H7	H7	H7	H7	H7		H7	H7	H7	H7		
	デスポ青葉区市ケ尾町	H7	H7	H26	H7	H7	H7				H7	H7				
	デスポ都筑区茅ヶ崎中央	H7	H7	H25	H7	H7	H7				H7	H7				
	デスポ泉区和泉中央北	H9	H9	H23	H9	H9	H9				H9	H9				
自排局	デスポ鶴見区下末吉		S54		S54	S54										
	デスポ西区浅間町		S46	H24	S46	S46		S58	S58	S46						
	デスポ港南区港南中央通		S51		S51	S51										
	デスポ戸塚区戸塚町		S47	H24	S47	S47		H2	H2							
	デスポ旭区都岡町		S47		S47	S47		H3	H3	S47						
	デスポ青葉区しらとり台		S47	H23	S47	S47				S47						
	デスポ都筑区平台		S63		S63	S63										
	デスポ磯子区滝頭		H4		H4	H4		H4	H4							

※表中の数字は、測定項目の測定開始年（S 昭和、H 平成）を示す。

2 常時監視測定値の取扱い及び評価方法

本報告書に記載されている常時監視測定値の取扱い及び評価方法は、「環境省 環境大気常時監視マニュアル 第6版」に準拠しています。

3 常時監視項目の測定方法

表 1-3 常時監視項目の測定方法

測 定 項 目	測 定 方 法
二 酸 化 硫 黄	JIS B 7952:2004の規格に基づく紫外線蛍光法
浮 遊 粒 子 状 物 質	JIS B 7954の規格に基づくベータ線吸収法
微 小 粒 子 状 物 質	JIS Z 8851のサンプラーを用いたベータ線吸収法
窒 素 酸 化 物	JIS B 7953の規格に基づくオゾンを用いた化学発光法
光 化 学 オ キ シ ダ ント	JIS B 7957:2006の規格に基づく紫外線吸収法
非メタン炭化水素、メタン	JIS B 7956の規格に基づく水素炎イオン化検出法
一 酸 化 炭 素	JIS B 7951の規格に基づく非分散型赤外線吸収法
風 向、風 速	風車型
温 度	白金抵抗式
湿 度	静電容量式
全 天 日 射 量	熱電堆式
放 射 収 支 量	熱電堆式

第2章 令和6年度大気汚染の状況

横浜市では大気環境の状況を把握するため、大気汚染防止法に基づき、二酸化硫黄等の常時監視（自動測定機による連続測定）及びベンゼン等の有害大気汚染物質の測定（毎月の定点測定）を継続的に行っています。

1 大気環境の概要

大気汚染の状況を把握するため、市内に一般局19局、自排局8局を設置し、環境基本法に基づき、環境基準が設定されている二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、二酸化窒素、光化学オキシダント及び微小粒子状物質について常時監視を行っています。

令和6年度の大気環境の状況は、微小粒子状物質等5物質について、全局で環境基準に適合しました。光化学オキシダントは全局で環境基準に適合しませんでした。

表 2-1 最近10年間の環境基準適合局数の推移

項目		二酸化硫黄 (SO ₂)	一酸化炭素 (CO)	浮遊粒子状物質 (SPM)		二酸化窒素 (NO ₂)		光化学オキシダント (OX)	微小粒子状物質 (PM _{2.5})	
		一般局	自排局	一般局	自排局	一般局	自排局	一般局	一般局	自排局
H27	達成局数	18/18	3/3	20/20	8/8	20/20	8/8	0/19	15/17	1/3
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0%	88%	33%
H28	達成局数	18/18	3/3	20/20	8/8	20/20	8/8	0/19	17/17	3/3
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0%	100%	100%
H29	達成局数	18/18	3/3	20/20	8/8	20/20	8/8	0/19	17/17	3/3
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0%	100%	100%
H30	達成局数	18/18	3/3	20/20	8/8	20/20	8/8	0/19	17/17	3/3
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0%	100%	100%
R 元	達成局数	18/18	3/3	20/20	8/8	20/20	8/8	0/19	17/17	3/3
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0%	100%	100%
R2	達成局数	17/17	3/3	18/18	8/8	18/18	8/8	0/18	16/16	3/3
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0%	100%	100%
R3	達成局数	18/18	3/3	19/19	8/8	19/19	8/8	0/19	17/17	3/3
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0%	100%	100%
R4	達成局数	18/18	3/3	19/19	8/8	19/19	8/8	0/19	17/17	3/3
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0%	100%	100%
R5	達成局数	18/18	3/3	19/19	8/8	19/19	8/8	0/19	17/17	3/3
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0%	100%	100%
R6	達成局数	18/18	3/3	19/19	8/8	19/19	8/8	0/19	17/17	3/3
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0%	100%	100%

※表中の達成局数は達成局数／測定局数を表す。環境基準の評価対象外となった測定局は除く。

2 常時監視測定結果

(1) 二酸化硫黄(SO₂)

測定を行った一般局 18 局の全局で環境基準を達成しました。環境基準の評価対象となった測定局のうち、全局での達成は、昭和 55 年度から 45 年連続です。

年平均値の全局平均は 0.002 ppm で、昭和 42 年度をピークに昭和 50 年度までに急激に低下し、その後緩やかに改善傾向を示し、低濃度で推移しています。

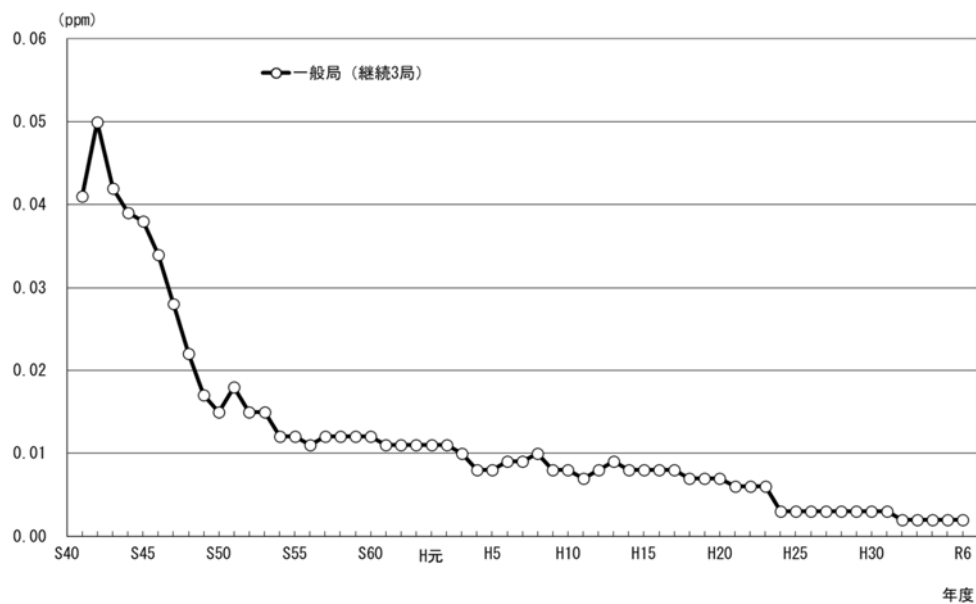


図 2-1 二酸化硫黄年平均値の経年変化（一般局継続 3 局）

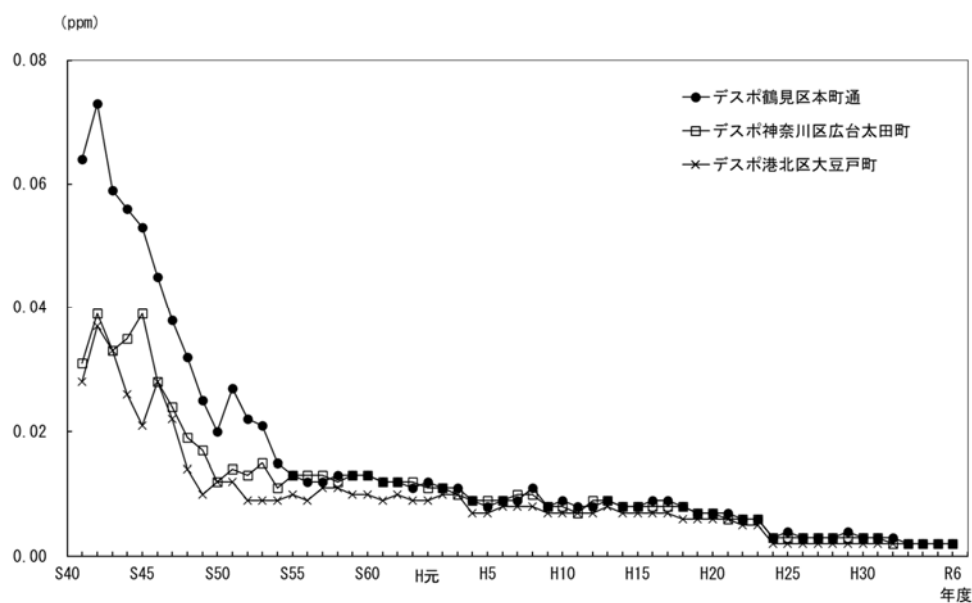


図 2-2 二酸化硫黄の年平均値の経年変化（一般局継続 3 局）

表 2-2 令和 6 年度 二酸化硫黄の年間測定結果（一般局）

測定局	年平均値	1 時間値が 0.1ppm を超えた 時間数	日平均値が 0.04ppm を 超えた日数	日平均値の 2 %除外値	長期的評価に よる環境基準 の適否
	(ppm)	(時間)	(日)	(ppm)	適○ 否×
デスポ鶴見区本町通	0.002	0	0	0.003	○
デスポ神奈川区広台太田町	0.002	0	0	0.003	○
デスポ港北区大豆戸町	0.002	0	0	0.003	○
デスポ磯子区磯子	0.002	0	0	0.004	○
デスポ保土ヶ谷区桜ヶ丘	0.002	0	0	0.003	○
デスポ西区平沼	0.002	0	0	0.003	○
デスポ金沢区富岡東	0.002	0	0	0.003	○
デスポ中区本牧大里町	0.002	2	0	0.004	○
デスポ戸塚区汲沢	0.002	0	0	0.003	○
デスポ港南区野庭町	0.002	0	0	0.003	○
デスポ旭区鶴ヶ峰	0.002	0	0	0.003	○
デスポ瀬谷区南瀬谷	0.002	0	0	0.002	○
デスポ南区南太田	0.002	0	0	0.003	○
デスポ栄区犬山町	0.002	0	0	0.003	○
デスポ緑区三保町	0.001	0	0	0.002	○
デスポ青葉区市ヶ尾町	0.002	0	0	0.003	○
デスポ都筑区茅ヶ崎中央	0.002	0	0	0.003	○
デスポ泉区和泉中央北	0.002	0	0	0.003	○
一般局平均	0.002	—	—	0.003	—

※二酸化硫黄の環境基準は「日平均値が 0.04 ppm 以下であり、かつ 1 時間値が 0.1 ppm 以下であること」であり、2 %除外値を環境基準と比較して評価する。ただし、環境基準を超える日が 2 日以上連続した場合は未達成と評価する。

表 2-3 二酸化硫黄の年平均値（年度）の経年変化（一般局）

(ppm)

測定局	令和 2	3	4	5	6
デスポ鶴見区本町通	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002
デスポ神奈川区広台太田町	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
デスポ港北区大豆戸町	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
デスポ磯子区磯子	0.002	0.003	0.002	0.002	0.002
デスポ保土ヶ谷区桜ヶ丘	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
デスポ西区平沼	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
デスポ金沢区富岡東	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
デスポ中区本牧大里町	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002
デスポ戸塚区汲沢	0.001	0.001	0.001	0.002	0.002
デスポ港南区野庭町	—	0.001	0.002	0.002	0.002
デスポ旭区鶴ヶ峰	0.002	0.002	0.002	0.001	0.002
デスポ瀬谷区南瀬谷	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
デスポ南区南太田	0.001	0.002	0.002	0.002	0.002
デスポ栄区犬山町	0.001	0.001	0.001	0.001	0.002
デスポ緑区三保町	0.002	0.002	0.002	0.001	0.001
デスポ青葉区市ヶ尾町	0.002	0.002	0.002	0.001	0.002
デスポ都筑区茅ヶ崎中央	0.002	0.002	0.001	0.002	0.002
デスポ泉区和泉中央北	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
一般局平均	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002

(2) 一酸化炭素(CO)

測定を行った自排局 3 局の全局で環境基準を達成しました。全局での達成は、昭和 56 年度から 44 年連続です。

年平均値の全局平均は、0.4ppm でした。昭和 52 年度以降低下し、その後も市内全域にわたって低濃度で推移しています。

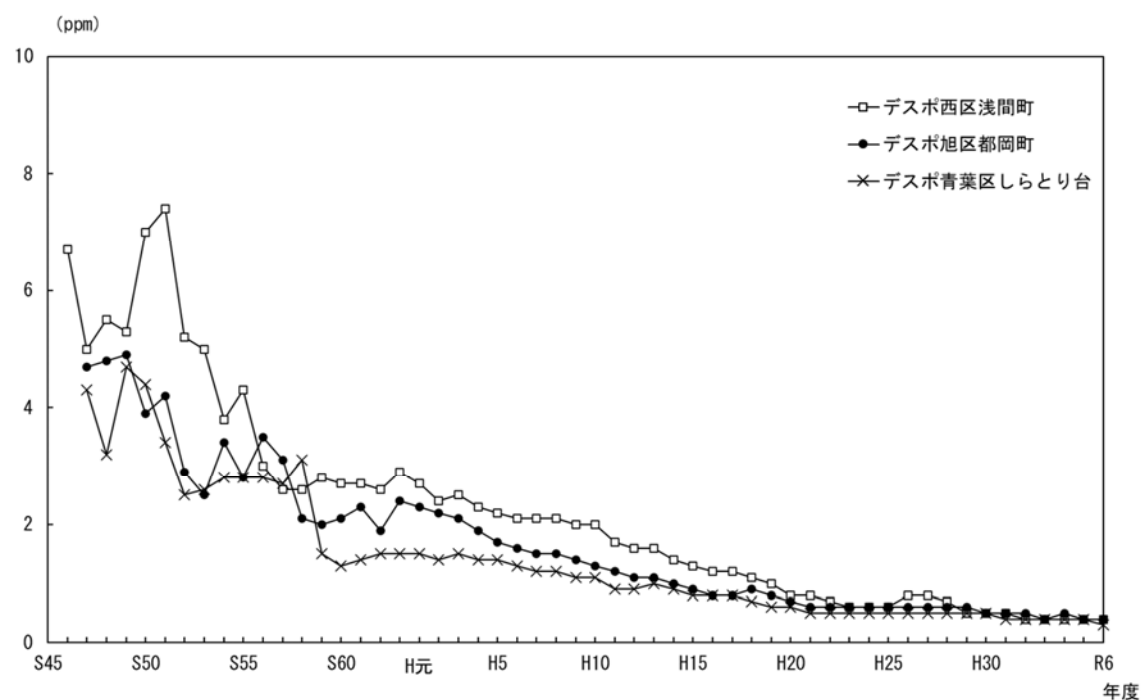


図 2-3 一酸化炭素の年平均値の経年変化（自排局継続 3 局）

表 2-4 令和 6 年度 一酸化炭素の年間測定結果（自排局）

測定局	年平均値	8 時間値が 20ppm を超え た回数	日平均値が 10ppm を超え た日数	日平均値の 2%除外値	長期的評価に よる環境基準 の適否
	(ppm)	(回)	(日)	(ppm)	適○ 否×
デスポ西区浅間町	0.4	0	0	0.7	○
デスポ旭区都岡町	0.4	0	0	0.8	○
デスポ青葉区しらとり台	0.3	0	0	0.6	○
自排局平均	0.4	—	—	0.7	—

※一酸化炭素の環境基準は「日平均値が10 ppm以下であり、かつ、8時間平均値が20 ppm以下であること」であり、2%除外値を環境基準と比較して評価する。ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、未達成と評価する。

表 2-5 一酸化炭素の年平均値（年度）の経年変化（自排局）

(ppm)

測定局	令和 2	3	4	5	6
デスポ西区浅間町	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
デスポ旭区都岡町	0.5	0.4	0.5	0.4	0.4
デスポ青葉区しらとり台	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3
自排局平均	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4

(3) 浮遊粒子状物質 (SPM)

測定を行った一般局 19 局及び自排局 8 局の全局で環境基準を達成しました。

年平均値の全局平均は、一般局が $0.016\text{mg}/\text{m}^3$ 、自排局が $0.015\text{mg}/\text{m}^3$ でした。

濃度が最も高かった昭和 53 年度と比較し、一般局で 73%、自排局では 81%低減しました。一般局及び自排局ともに改善傾向を示しています。



図 2-4 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化（継続測定局）

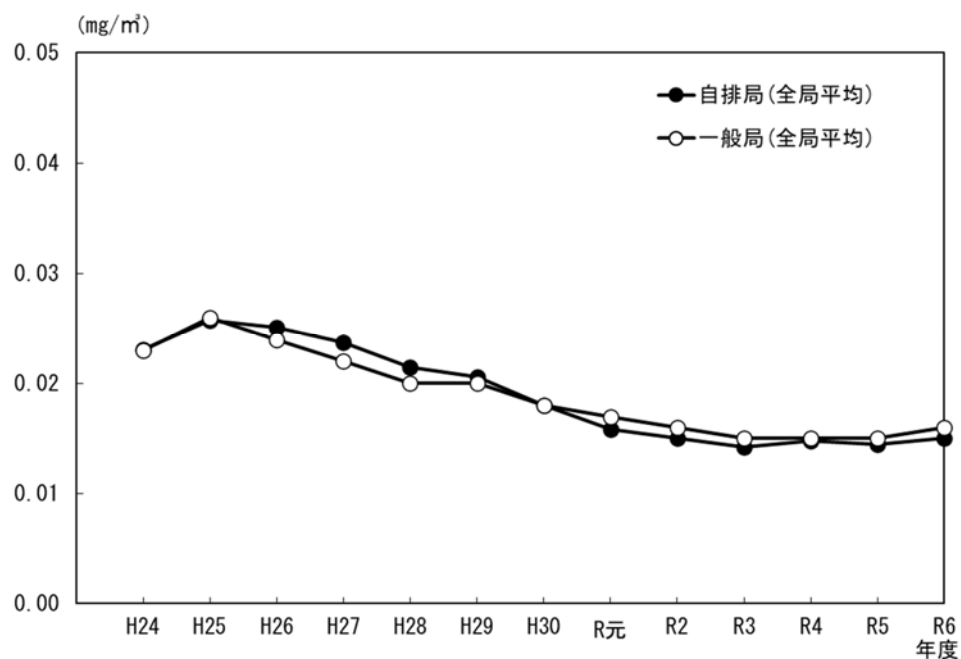


図 2-5 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

表 2-6 令和 6 年度 浮遊粒子状物質の年間測定結果（一般局・自排局）

測定局	年平均値	1 時間値が 0.20mg/m ³ を 超えた時間数	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた 日数とその割合		日平均値の 2 %除外値	長期的評価 による環境 基準の適否
	(mg/m ³)	(時間)	(日)	(%)	(mg/m ³)	適○ 否×
デスポ鶴見区本町通	0.015	0	0	0	0.041	○
デスポ神奈川区広台太田町	0.016	0	0	0	0.038	○
デスポ港北区大豆戸町	0.016	0	0	0	0.037	○
デスポ磯子区磯子	0.015	0	0	0	0.043	○
デスポ保土ヶ谷区桜ヶ丘	0.014	0	0	0	0.035	○
デスポ西区平沼	0.017	0	0	0	0.040	○
デスポ金沢区富岡東	0.016	0	0	0	0.042	○
デスポ鶴見区生麦	0.017	0	0	0	0.042	○
デスポ中区本牧大里町	0.015	0	0	0	0.036	○
デスポ戸塚区汲沢	0.015	0	0	0	0.038	○
デスポ港南区野庭町	0.015	0	0	0	0.039	○
デスポ旭区鶴ヶ峰	0.016	0	0	0	0.039	○
デスポ瀬谷区南瀬谷	0.017	0	0	0	0.043	○
デスポ南区南太田	0.016	0	0	0	0.041	○
デスポ栄区犬山町	0.014	0	0	0	0.039	○
デスポ緑区三保町	0.017	0	0	0	0.039	○
デスポ青葉区市ヶ尾町	0.015	0	0	0	0.036	○
デスポ都筑区茅ヶ崎中央	0.016	0	0	0	0.039	○
デスポ泉区和泉中央北	0.015	0	0	0	0.042	○
一般局平均	0.016	—	—	—	0.039	—
デスポ鶴見区下末吉	0.015	0	0	0	0.043	○
デスポ西区浅間町	0.015	0	0	0	0.037	○
デスポ港南区港南中央通	0.016	0	0	0	0.046	○
デスポ戸塚区戸塚町	0.015	0	0	0	0.042	○
デスポ旭区都岡町	0.014	0	0	0	0.035	○
デスポ青葉区しらとり台	0.015	0	0	0	0.037	○
デスポ都筑区平台	0.014	0	0	0	0.035	○
デスポ磯子区滝頭	0.016	0	0	0	0.043	○
自排局平均	0.015	—	—	—	0.040	—

※浮遊粒子状物質の環境基準は「日平均値が 0.10 mg/m³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20 mg/m³ 以下であること」であり、2 %除外値を環境基準と比較して評価する。

表 2-7 浮遊粒子状物質年平均値（年度）の経年変化（一般局・自排局）

(mg/m³)

測定局	令和 2	3	4	5	6
デスポ鶴見区本町通	0.016	0.015	0.016	0.015	0.015
デスポ神奈川区広台太田町	0.016	0.014	0.015	0.015	0.016
デスポ港北区大豆戸町	0.017	0.016	0.016	0.016	0.016
デスポ磯子区磯子	0.014	0.014	0.015	0.015	0.015
デスポ保土ヶ谷区桜ヶ丘	0.014	0.013	0.014	0.014	0.014
デスポ西区平沼	0.015	0.015	0.016	0.017	0.017
デスポ金沢区富岡東	0.016	0.015	0.017	0.016	0.016
デスポ鶴見区生麦	0.018	0.016	0.017	0.017	0.017
デスポ中区本牧大里町	0.014	0.014	0.014	0.014	0.015
デスポ戸塚区汲沢	0.015	0.014	0.015	0.015	0.015
デスポ港南区野庭町	—	0.014	0.015	0.015	0.015
デスポ旭区鶴ヶ峰	0.017	0.015	0.015	0.015	0.016
デスポ瀬谷区南瀬谷	0.016	0.016	0.017	0.016	0.017
デスポ南区南太田	0.015	0.015	0.015	0.016	0.016
デスポ栄区犬山町	0.015	0.013	0.014	0.015	0.014
デスポ緑区三保町	0.017	0.015	0.016	0.016	0.017
デスポ青葉区市ヶ尾町	0.016	0.015	0.016	0.015	0.015
デスポ都筑区茅ヶ崎中央	0.016	0.015	0.015	0.016	0.016
デスポ泉区和泉中央北	0.014	0.015	0.015	0.015	0.015
一般局平均	0.016	0.015	0.015	0.015	0.016
デスポ鶴見区下末吉	0.015	0.014	0.015	0.015	0.015
デスポ西区浅間町	0.015	0.015	0.015	0.015	0.015
デスポ港南区港南中央通	0.016	0.015	0.015	0.015	0.016
デスポ戸塚区戸塚町	0.015	0.014	0.014	0.015	0.015
デスポ旭区都岡町	0.015	0.014	0.016	0.014	0.014
デスポ青葉区しらとり台	0.014	0.014	0.015	0.014	0.015
デスポ都筑区平台	0.014	0.013	0.013	0.013	0.014
デスポ磯子区滝頭	0.016	0.015	0.015	0.015	0.016
自排局平均	0.015	0.014	0.015	0.015	0.015

(4) 二酸化窒素(NO₂)

測定を行った一般局 19 局及び自排局 8 局の全局で環境基準を達成しました。全局での達成は、平成 17 年度から 20 年連続です。また、横浜市環境管理計画で定める環境目標値 (0.04ppm 以下) に対しても全局で目標値を達成しました。

自排局では最も濃度が高かった昭和 54 年度と比較し、71%低減しました。一般局で最も濃度が高かった平成 3 年度と比較し、64%低減しました。

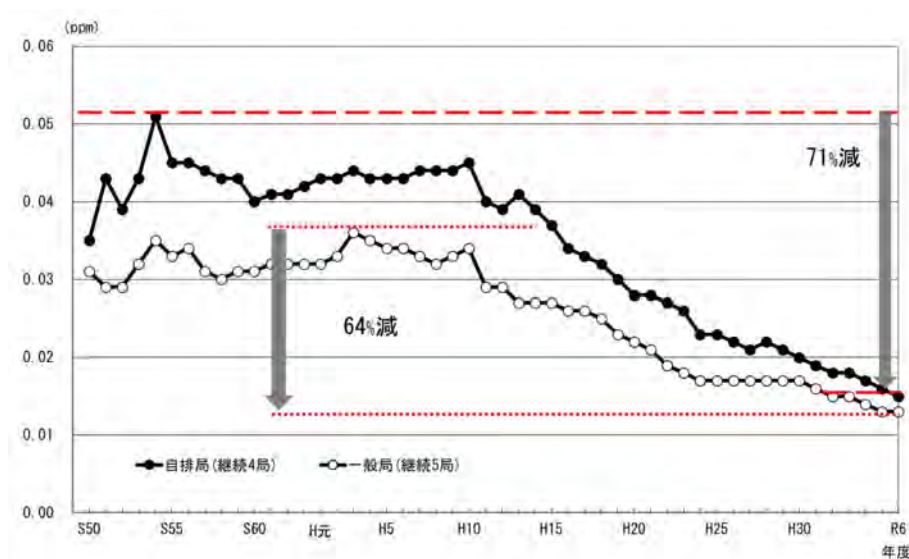


図 2-6 二酸化窒素の年平均値の経年変化 (継続測定局)

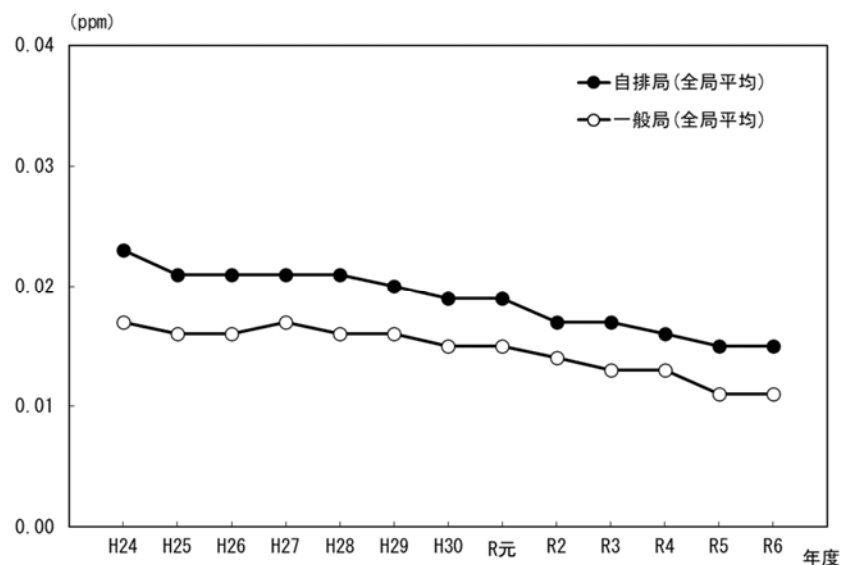


図 2-7 二酸化窒素の年平均値の経年変化

表 2-8 令和 6 年度 二酸化窒素の年間測定結果（一般局・自排局）

測定局	年平均値	日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその割合		日平均値の年間 98%値	98%値評価による日平均値が 0.06ppm を超えた日数	98%値評価による環境基準の適否
		(日)	(%)			
	(ppm)	(日)	(%)	(ppm)	(日)	適○ 否×
デスポ鶴見区本町通	0.014	0	0.0	0.032	0	○
デスポ神奈川区広台太田町	0.014	0	0.0	0.034	0	○
デスポ港北区大豆戸町	0.013	0	0.0	0.031	0	○
デスポ磯子区磯子	0.014	0	0.0	0.033	0	○
デスポ保土ヶ谷区桜ヶ丘	0.011	0	0.0	0.027	0	○
デスポ西区平沼	0.012	0	0.0	0.031	0	○
デスポ金沢区富岡東	0.010	0	0.0	0.026	0	○
デスポ鶴見区生麦	0.014	0	0.0	0.032	0	○
デスポ中区本牧大里町	0.014	0	0.0	0.033	0	○
デスポ戸塚区汲沢	0.009	0	0.0	0.025	0	○
デスポ港南区野庭町	0.010	0	0.0	0.027	0	○
デスポ旭区鶴ヶ峰	0.010	0	0.0	0.026	0	○
デスポ瀬谷区南瀬谷	0.010	0	0.0	0.024	0	○
デスポ南区南太田	0.012	0	0.0	0.033	0	○
デスポ栄区犬山町	0.009	0	0.0	0.023	0	○
デスポ緑区三保町	0.010	0	0.0	0.025	0	○
デスポ青葉区市ヶ尾町	0.011	0	0.0	0.026	0	○
デスポ都筑区茅ヶ崎中央	0.010	0	0.0	0.027	0	○
デスポ泉区和泉中央北	0.010	0	0.0	0.025	0	○
一般局平均	0.011	—	—	0.028	—	—
デスポ鶴見区下末吉	0.017	0	0.0	0.034	0	○
デスポ西区浅間町	0.017	0	0.0	0.036	0	○
デスポ港南区港南中央通	0.014	0	0.0	0.033	0	○
デスポ戸塚区戸塚町	0.014	0	0.0	0.031	0	○
デスポ旭区都岡町	0.015	0	0.0	0.029	0	○
デスポ青葉区しらとり台	0.014	0	0.0	0.029	0	○
デスポ都筑区平台	0.011	0	0.0	0.026	0	○
デスポ磯子区滝頭	0.015	0	0.0	0.032	0	○
自排局平均	0.015	—	—	0.031	—	—

※二酸化窒素の環境基準は「日平均値が0.04 ppmから0.06 ppmまでのゾーン内、又はそれ以下であること」であり、年間98%値を環境基準と比較して評価する。

表 2-9 二酸化窒素の年平均値（年度）の経年変化（一般局・自排局）

(ppm)

測定局	令和 2	3	4	5	6
デスポ鶴見区本町通	0.016	0.016	0.016	0.014	0.014
デスポ神奈川区広台太田町	0.015	0.015	0.015	0.013	0.014
デスポ港北区大豆戸町	0.014	0.014	0.014	0.012	0.013
デスポ磯子区磯子	0.016	0.016	0.016	0.014	0.014
デスポ保土ヶ谷区桜ヶ丘	0.013	0.012	0.012	0.011	0.011
デスポ西区平沼	0.016	0.015	0.014	0.012	0.012
デスポ金沢区富岡東	0.013	0.012	0.011	0.010	0.010
デスポ鶴見区生麦	0.016	0.015	0.015	0.014	0.014
デスポ中区本牧大里町	0.017	0.016	0.015	0.014	0.014
デスポ戸塚区汲沢	0.012	0.011	0.011	0.009	0.009
デスポ港南区野庭町	—	0.013	0.012	0.010	0.010
デスポ旭区鶴ヶ峰	0.012	0.011	0.011	0.010	0.010
デスポ瀬谷区南瀬谷	0.012	0.012	0.011	0.010	0.010
デスポ南区南太田	0.014	0.015	0.014	0.012	0.012
デスポ栄区犬山町	0.012	0.011	0.011	0.009	0.009
デスポ緑区三保町	0.011	0.010	0.010	0.009	0.010
デスポ青葉区市ヶ尾町	0.013	0.013	0.012	0.011	0.011
デスポ都筑区茅ヶ崎中央	0.012	0.012	0.012	0.011	0.010
デスポ泉区和泉中央北	0.012	0.013	0.012	0.011	0.010
一般局平均	0.014	0.013	0.013	0.011	0.011
デスポ鶴見区下末吉	0.018	0.019	0.019	0.017	0.017
デスポ西区浅間町	0.021	0.021	0.020	0.018	0.017
デスポ港南区港南中央通	0.016	0.017	0.016	0.015	0.014
デスポ戸塚区戸塚町	0.017	0.017	0.014	0.015	0.014
デスポ旭区都岡町	0.016	0.017	0.018	0.016	0.015
デスポ青葉区しらとり台	0.017	0.016	0.015	0.014	0.014
デスポ都筑区平台	0.014	0.013	0.013	0.011	0.011
デスポ磯子区滝頭	0.017	0.017	0.016	0.014	0.015
自排局平均	0.017	0.017	0.016	0.015	0.015

(5) 光化学オキシダント(O_x)

測定を行った一般局 19 局の全局で環境基準を達成しませんでした。平成 2 年度から 35 年連続で全局未達成が続いています。

本市域への光化学スモッグ注意報の発令回数は 8 回でした。市内届出被害者数は 1 名でした。なお、光化学スモッグ警報は昭和 54 年以降発令されていません。

平成 26 年 9 月に、環境省から光化学オキシダント濃度の長期的な改善傾向を評価するための指標（日最高値 8 時間値の年間 99 パーセンタイル値の 3 年移動平均値）が示されました。この指標での経年変化をみると、近年横ばいの数値となっています。

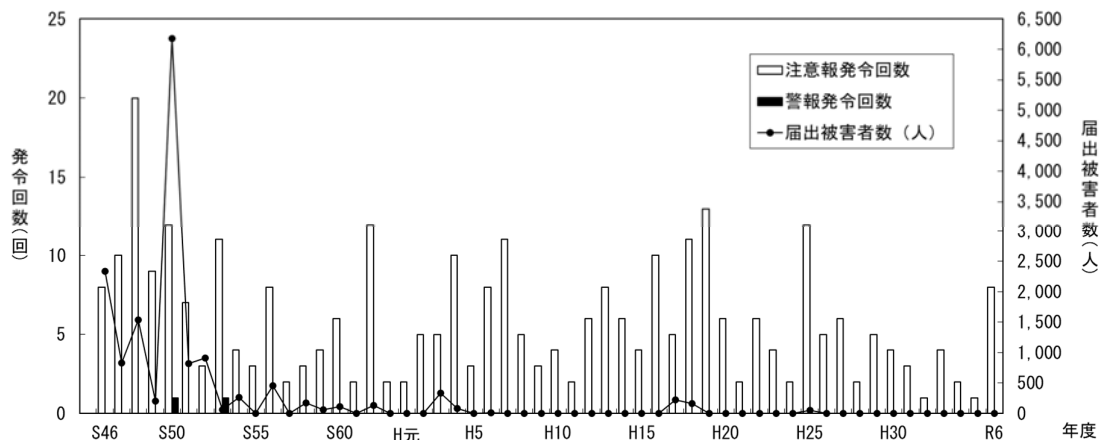


図 2-8 光化学スモッグ注意報・警報の発令状況及び届出被害者数の経年変化

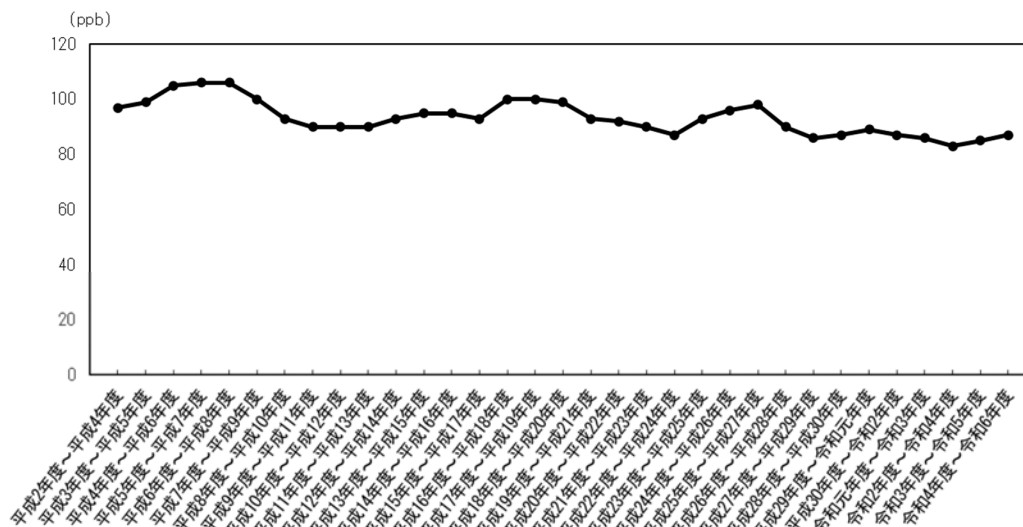


図 2-9 光化学オキシダント濃度の日最高 8 時間値の年間 99 パーセンタイル値の 3 年移動平均値（全測定局）

表 2-10 令和 6 年度 光化学オキシダントの年間測定結果（一般局）

測定局	昼間の 1 時間値 の年平均値	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日 数と時間数		昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の日 数と時間数		昼間の 1 時間 値の最高値	環境基準 の適否
	(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)	(ppm)	適○ 否×
デスポ鶴見区本町通	0.033	68	298	2	3	0.153	×
デスポ神奈川区広台太田町	0.034	82	378	4	8	0.166	×
デスポ港北区大豆戸町	0.035	76	370	4	7	0.138	×
デスポ磯子区磯子	0.033	64	281	3	3	0.133	×
デスポ保土ヶ谷区桜ヶ丘	0.035	83	392	5	10	0.131	×
デスポ西区平沼	0.034	71	330	4	4	0.124	×
デスポ金沢区富岡東	0.032	65	293	0	0	0.113	×
デスポ鶴見区生麦	0.033	72	315	3	5	0.160	×
デスポ中区本牧大里町	0.032	61	262	1	2	0.127	×
デスポ戸塚区汲沢	0.039	107	572	3	6	0.155	×
デスポ港南区野庭町	0.036	87	427	2	4	0.132	×
デスポ旭区鶴ヶ峰	0.036	89	444	5	11	0.130	×
デスポ瀬谷区南瀬谷	0.035	75	338	1	1	0.126	×
デスポ南区南太田	0.036	92	470	5	9	0.133	×
デスポ栄区犬山町	0.037	94	482	1	2	0.134	×
デスポ緑区三保町	0.035	97	454	7	12	0.139	×
デスポ青葉区市ヶ尾町	0.035	104	519	7	17	0.158	×
デスポ都筑区茅ヶ崎中央	0.037	105	538	7	19	0.162	×
デスポ泉区和泉中央北	0.035	75	372	1	3	0.150	×
一般局平均	0.035	—	—	—	—	—	—

※光化学オキシダントの環境基準は「1 時間値が 0.06 ppm 以下であること」であり、昼間の全ての 1 時間値によって評価する。

表 2-11 令和 6 年度 光化学スモッグ注意報の発令状況

発令回数 (回目)	発令日	措置種類	発令時刻	光化学オキシダント濃度の 市内最高値			市内 届出 被害 者数	神奈川県内の 他地域の発令状況
				最高値	測定局	時刻		
1	6 月 26 日 (水)	注意報	14 : 30～ 16 : 20	0.135ppm	デスポ青葉区市 ケ尾町	15 時	0 名	川崎
2	7 月 3 日 (水)	注意報	13 : 30～ 15 : 30	0.125ppm	デスポ磯子区磯 子	13 時	0 名	
3	7 月 4 日 (木)	注意報	12 : 20～ 17 : 20	0.166ppm	デスポ神奈川区 広台太田町	14 時	0 名	川崎、相模原、 横須賀、湘南、 県央
4	7 月 5 日 (金)	注意報	13 : 20～ 18 : 30	0.146ppm	デスポ青葉区市 ケ尾町	14 時	0 名	川崎、相模原、 横須賀、三浦、 湘南、県央
5	7 月 6 日 (土)	注意報	13 : 30～ 17 : 30	0.148ppm	デスポ緑区三保 町	15 時	0 名	川崎
6	7 月 18 日 (木)	注意報	13 : 30～ 15 : 20	0.131ppm	デスポ青葉区市 ケ尾町	13 時	0 名	川崎
7	7 月 22 日 (月)	注意報	13 : 20～ 16 : 20	0.149ppm	デスポ青葉区市 ケ尾町	14 時	1 名	川崎
8	8 月 5 日 (月)	注意報	13 : 20～ 15 : 20	0.144ppm	デスポ青葉区市 ケ尾町	14 時	0 名	川崎

(6) 微小粒子状物質(PM2.5)

測定を行った一般局 17 局及び自排局 3 局の全局で環境基準を達成しました。

自排局では最も濃度が高かった平成 23 年度と比較し、47%低減しました。一般局で最も濃度が高かった平成 23 年度と比較し、38%低減しました。

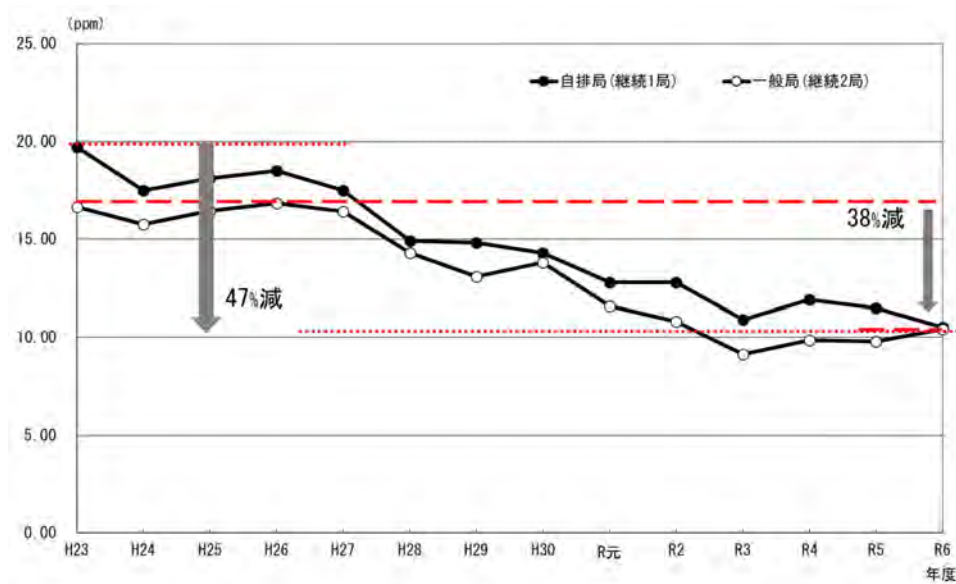


図 2-10 微小粒子状物質の年平均値の経年変化 (継続測定局)

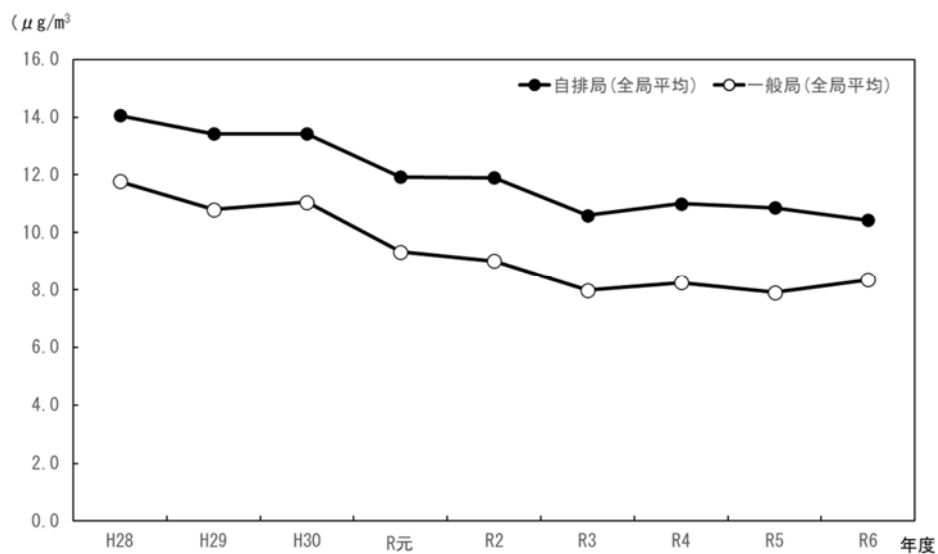


図 2-11 微小粒子状物質の年平均値の経年変化

表 2-12 令和 6 年度 微小粒子状物質の年間測定結果（一般局・自排局）

測定局	日平均値の 年平均値	日平均値の 年間 98%値	日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		環境基準 の適否
	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	(日)	(%)	適○ 否×
デスポ鶴見区本町通	11.2	25.1	0	0.0	○
デスポ神奈川区広台太田町	9.3	23.5	0	0.0	○
デスポ港北区大豆戸町	9.1	22.6	0	0.0	○
デスポ磯子区磯子	9.5	26.4	0	0.0	○
デスポ保土ヶ谷区桜ヶ丘	8.5	21.5	0	0.0	○
デスポ西区平沼	9.2	23.3	0	0.0	○
デスポ金沢区富岡東	6.8	18.6	0	0.0	○
デスポ中区本牧大里町	7.7	19.9	0	0.0	○
デスポ港南区野庭町	7.2	18.5	0	0.0	○
デスポ旭区鶴ヶ峰	7.6	19.0	0	0.0	○
デスポ瀬谷区南瀬谷	9.5	23.8	1	0.3	○
デスポ南区南太田	7.6	18.4	0	0.0	○
デスポ栄区犬山町	6.3	18.3	0	0.0	○
デスポ緑区三保町	6.0	16.9	0	0.0	○
デスポ青葉区市ケ尾町	8.7	22.2	0	0.0	○
デスポ都筑区茅ヶ崎中央	8.1	20.3	0	0.0	○
デスポ泉区和泉中央北	9.6	27.6	0	0.0	○
一般局平均	8.3	21.5	—	—	—
デスポ西区浅間町	10.8	26.8	0	0.0	○
デスポ戸塚区戸塚町	10.0	25.2	0	0.0	○
デスポ青葉区しらとり台	10.5	26.7	0	0.0	○
自排局平均	10.4	26.2	—	—	—

※微小粒子状物質の環境基準は「年平均値が $15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること」であり、年平均値と年間 98%値をそれぞれ環境基準と比較して評価する。

(7) 非メタン炭化水素

測定を行った一般局 6 局及び自排局 4 局の全局で指針値を達成しませんでした。

自排局では最も濃度が高かった昭和 63 年度と比較し、87%低減しました。一般局で最も濃度

が高かった平成2年度と比較し、78%低減しました

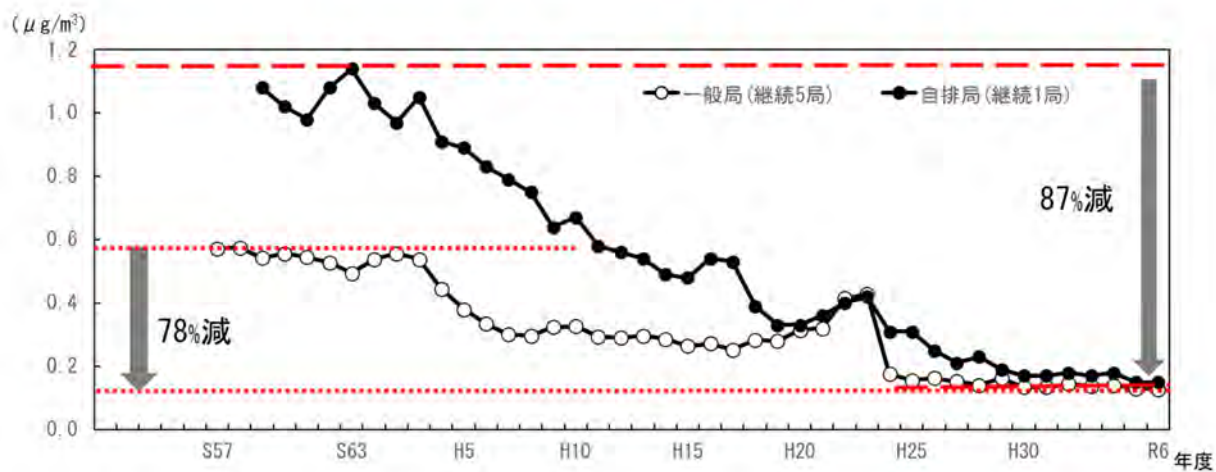


図 2-12 非メタン炭化水素の年平均値の経年変化（継続測定局）

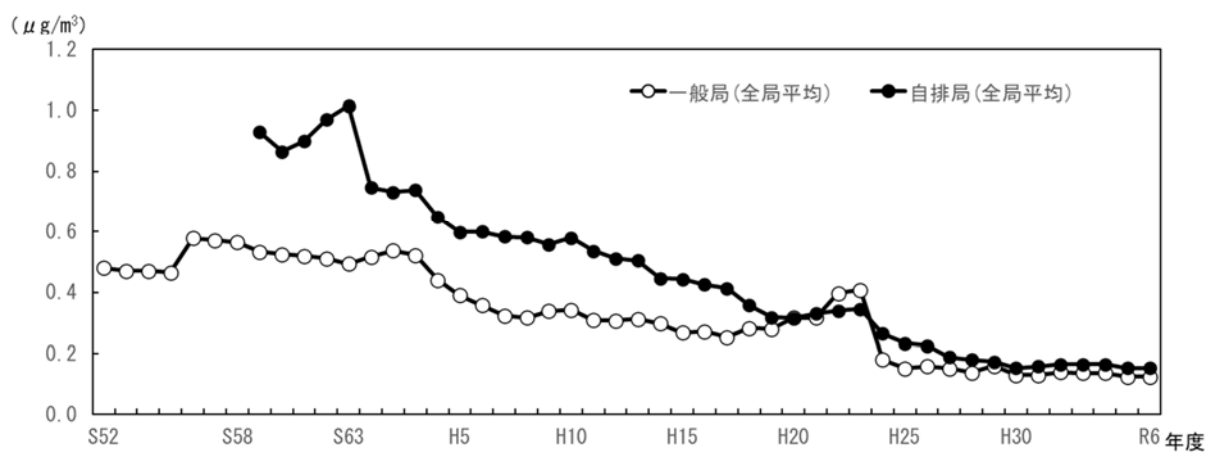


図 2-13 非メタン炭化水素の年平均値の経年変化

表 2-13 令和 6 年度 非メタン炭化水素の年間測定結果（一般局・自排局）

測定局	年平均値	6～9 時における年 平均値	6～9 時 3 時間平均値 の最高値	6～9 時 3 時間平均値 が 0.31ppmC を超えた 日数とその割合		指針値に 対する 適否
	(ppmC)	(ppmC)	(ppmC)	(日)	(%)	適○ 否×
デスポ鶴見区本町通	0.16	0.16	0.55	15	4.1	×
デスポ金沢区富岡東	0.10	0.11	0.40	1	0.3	×
デスポ鶴見区生麦	0.13	0.14	0.53	14	3.8	×
デスポ中区本牧大里町	0.12	0.13	0.63	8	2.2	×
デスポ旭区鶴ヶ峰	0.13	0.14	0.52	20	5.5	×
デスポ緑区三保町	0.11	0.12	0.36	6	1.6	×
一般局平均	0.13	0.13	0.50	10.7	2.9	—
デスポ西区浅間町	0.15	0.16	0.45	20	5.6	×
デスポ戸塚区戸塚町	0.12	0.13	0.52	11	3.0	×
デスポ旭区都岡町	0.17	0.19	0.77	46	12.7	×
デスポ磯子区滝頭	0.17	0.19	2.34	39	10.7	×
自排局平均	0.15	0.17	1.0	29	8.0	—

※非メタン炭化水素の指針値は、「午前 6 時から 9 時の 3 時間平均値が 0.20～0.31ppmC を超えないこと」とされている。(ppmC とは、炭素換算濃度のこと。1ppmC は、空気 1m³ 中に CH₄ 換算された物質が 1 cm³ 含まれる場合をいう。)

第3章 有害大気汚染物質及びダイオキシン類の測定結果

有害大気汚染物質のうちの優先取組物質等の23物質を一般局2局（固定発生源周辺1局、一般環境1局）と自排局1局（沿道1局）で測定しました。（有害大気汚染物質の調査地点は、「一般環境」、「固定発生源周辺」及び「沿道」に分類されています。）

有害大気汚染物質のうち、環境基準又は指針値が設定されている15物質（ベンゼン等）は、測定を行った全局で環境基準又は指針値に適合しました。

ダイオキシン類は市内6地点で年2回測定し、全ての地点で環境基準に適合しました。

表3-1 令和6年度 環境基準が設定されている4物質の測定結果

測定項目	環境基準	固定発生源周辺		沿道		一般環境	
		デスポ鶴見区本町通		デスポ磯子区滝頭		デスポ緑区三保町	
		年平均値	適○ 否×	年平均値	適○ 否×	年平均値	適○ 否×
ベンゼン	3 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.53	○	0.72	○	0.49	○
トリクロロエチレン	130 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.33	○	0.24	○	0.26	○
テトラクロロエチレン	200 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.055	○	0.040	○	0.049	○
ジクロロメタン	150 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	1.2	○	0.92	○	1.1	○

表3-2 令和6年度 指針値が設定されている11物質の測定結果

測定項目	指針値	固定発生源周辺		沿道		一般環境	
		デスポ鶴見区本町通		デスポ磯子区滝頭		デスポ緑区三保町	
		年平均値	適○ 否×	年平均値	適○ 否×	年平均値	適○ 否×
アクリロニトリル	2 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.063	○	0.039	○	0.022	○
アセトアルデヒド	120 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	2.0	○	1.9	○	1.8	○
塩化ビニルモノマー	10 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.25	○	0.18	○	0.19	○
塩化メチル	94 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	1.2	○	1.1	○	1.1	○
クロロホルム	18 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.16	○	0.15	○	0.14	○
1,2 - ジクロロエタン	1.6 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.095	○	0.10	○	0.094	○
水銀及びその化合物	40ngHg/ m^3	1.7	○	1.7	○	1.6	○
ニッケル化合物	25ngNi/ m^3	3.6	○	1.6	○	1.0	○
ヒ素及びその化合物	6ngAs/ m^3	0.79	○	0.64	○	0.61	○
1,3 - ブタジエン	2.5 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.097	○	0.13	○	0.060	○
マンガン及びその化合物	140ngMn/ m^3	19	○	14	○	16	○

指針値：環境基準に準じて国が設定した値

表 3-3 令和 6 年度 その他 8 物質の測定結果

測定項目	単位	固定発生源	沿道	一般環境
		デスポ鶴見区本町通	デスポ磯子区滝頭	デスポ緑区三保町
		年平均値	年平均値	年平均値
クロム及びその化合物	ng/m ³	5.8	4.1	2.3
酸化エチレン	μg/m ³	0.053	0.057	0.042
ベリリウム及びその化合物	ng/m ³	0.011	0.010	0.016
ベンゾ（a）ピレン	ng/m ³	0.072	0.051	0.061
ホルムアルデヒド	μg/m ³	2.1	2.2	2.2
四塩化炭素	μg/m ³	0.39	0.38	0.38
1,2 - ジクロロプロパン	μg/m ³	0.023	0.026	0.026
トルエン	μg/m ³	4.0	4.0	3.6

表 3-4 令和 6 年度 ダイオキシン類の測定結果

毒性等量：pg-TEQ/m³

測定局	令和 6 年 8 月 15 日 ～ 8 月 22 日	令和 7 年 1 月 23 日 ～ 1 月 30 日	年平均値
デスポ鶴見区生麦	0.019	0.012	0.016
デスポ西区平沼	0.0072	0.019	0.013
デスポ戸塚区汲沢	0.0052	0.0091	0.0072
デスポ瀬谷区南瀬谷	0.0058	0.0095	0.0077
デスポ栄区犬山町	0.0050	0.0078	0.0064
デスポ青葉区市ケ尾町	0.0086	0.0099	0.0093

※ダイオキシン類の環境基準は、0.6pg-TEQ/m³ 以下。2, 3, 7, 8-四塩化ジベンゾ-p-ダイオキシンの
毒性に換算した値とし、年平均値で評価する。

第4章 空間放射線測定結果

環境中には、アルファ線、ベータ線、ガンマ線等の放射線が存在するが、本市ではその中で空気中において比較的透過力が大きい空間ガンマ線のみ測定対象として、保土ケ谷区仏向西の市有地において地上1mの空間放射線量の測定をしています。

空間ガンマ線の最高値は0.058 μ Sv/時、最低値は0.027 μ Sv/時、平均値は0.029 μ Sv/時でした。

表4-1 空間ガンマ線の測定結果

(単位： μ Sv/時)

年月	令和6年									令和7年※				年間値
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 6日 まで	2月 7日 から	3月	
測定 時間	720 時間	744 時間	720 時間	744 時間	744 時間	720 時間	744 時間	720 時間	744 時間	744 時間	144 時間	31610 分	44640 分	—
最高値	0.044	0.054	0.052	0.052	0.044	0.044	0.048	0.048	0.036	0.043	0.039	0.033	0.058	0.058
最低値	0.028	0.028	0.028	0.029	0.028	0.028	0.028	0.028	0.028	0.028	0.028	0.027	0.027	0.027
平均値	0.029	0.029	0.030	0.030	0.029	0.029	0.029	0.029	0.029	0.029	0.029	0.028	0.029	0.029

※ 大気・水質等常時監視システムの更新に伴い、令和7年2月7日から測定間隔を1時間から10分間に変更しています。

参考情報

表 5-1 大気汚染に関する環境基準及び評価方法

物質名	環境基準	評価方法
二酸化硫黄	日平均値が0.04ppm 以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。	長期的評価※ ¹
一酸化炭素	日平均値が10ppm 以下であり、かつ、8時間平均値が20ppm以下であること。	長期的評価※ ¹
浮遊粒子状物質	日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。	長期的評価※ ¹
二酸化窒素	日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内、又はそれ以下であること。	98%値評価※ ²
光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm以下であること。	昼間※ ³
微小粒子状物質	年平均値が15μg/m ³ 以下であり、かつ、日平均値が35μg/m ³ 以下であること。	年平均値の評価及び98%値評価の併用 ※ ⁴

※1 年間の日平均値のうち、高いほうから2%の範囲にあるものを除外した後の最高値（2%除外値）を環境基準と比較して評価する。ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、不適合と評価する。

※2 年間の日平均値のうち、低いほうから98%に相当するもの（日平均値の年間98%値）を環境基準と比較して評価する。

※3 5時～20時の測定値を対象とする。

※4 年平均値が長期基準である15μg/m³以下であり、かつ、日平均値の年間98%値が短期基準である35μg/m³以下である場合に、適合と評価する。

表 5-2 有害大気汚染物質に関する環境基準・指針値

物質名	環境基準	物質名	指針値
ベンゼン	3μg/m ³	アクリロニトリル	2μg/m ³
トリクロロエチレン	130μg/m ³	塩化ビニルモノマー	10μg/m ³
テトラクロロエチレン	200μg/m ³	クロロホルム	18μg/m ³
ジクロロメタン	150μg/m ³	1,2-ジクロロエタン	1.6μg/m ³
年平均値が各環境基準値・指針値以下であること。		水銀及びその化合物	40ng/m ³
		ニッケル化合物	25ng/m ³
		1,3-ブタジエン	2.5μg/m ³
		ヒ素及びその化合物	6ng/m ³
		マンガン及びその化合物	0.14μg/m ³
		塩化メチル	94μg/m ³
		アセトアルデヒド	120μg/m ³

表 5-3 ダイオキシン類（大気）の環境基準

基準値
0.6pg-TEQ/m ³ 以下

- ※ 基準値は 2, 3, 7, 8-四塩化ジベンゾーパラジオキシンの毒性に換算した値とする。
- ※ 大気の基準値は、年平均値とする。

令和 6 年度
横浜市大気測定結果報告書

令和 7 年 7 月発行

編集 横浜市みどり環境局環境保全部
環境管理課 監視センター

〒231-0005 横浜市中区本町 6-50-10

TEL 045 (671) 3507

FAX 045 (681) 2790